

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270700257		
法人名	社会福祉法人 白寿会		
事業所名	平戸荘グループホーム		
所在地	〒859-5361 長崎県平戸市紐差町450番地		
自己評価作成日	平成30年9月26日	評価結果市町村受理日	平成30年11月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=4270700257-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療・福祉ネットワークせいわ		
所在地	〒840-0015 佐賀県佐賀市木原二丁目6番5号		
訪問調査日	平成30年10月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 1.地域に根差したアットホームな生活環境を提供している。
- 2.管理栄養士が地元食材を生かしたメニュー計画を立案し、介護職員が利用者様と一緒に食事作りをして家庭的な雰囲気を大切にしている。
- 3.花壇造りやホームの農地に野菜作りをして外に出る機会や自然環境にも配慮している。
- 4.地元の児童や婦人会及びボランティアの方々も気軽にホームを訪れ、楽しいコミュニケーションの場を提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園風景が広がる静かな山間に位置するホームは日当たりも見晴らしもよく、穏やかな時間を過ごすことが出来ます。広い敷地の中には同一法人の特別養護老人ホームやデイサービス・訪問介護事業所などがあり、夜間救急時の医療スタッフとの連携が図られたり、運動会や海遊びなどの合同イベントを通じて利用者同士の交流が行われ、相互に協力しながら安全で安心した暮らしを提供できるように努められています。

母体法人は古くから地域に根ざした福祉活動をされており、地域住民との付き合いも円滑に行われています。また、近くの小・中学校の行事に招待されたり、地域の祭りや公民館の文化祭に参加したりと、様々な形で近隣の人々と関わる機会を設けられ、利用者はイキイキとした表情で地域の人たちとのふれあいを楽しんでいます。

ホームでは、「利用者の本位」の暮らしに重点を置き、一人ひとりの利用者の気持ちに寄り添いながら、これまでのライフスタイルや人間関係などを大切に生活を支援されています。また、梅の実取りからの梅干作り、団子用のよもぎ葉摘み、ジャガイモや玉ねぎなど旬の野菜の収穫など利用者に手伝ってもらったり、流しそうめんをしたり、食を通じて季節の移り変わりを楽しんで頂けるように工夫されています。

(別紙2-2)

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事務所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝ミーティング時に職員全員で理念を唱和している。毎日、大きな声で唱和する事でチーム全体として再確認している。	毎日の唱和で確認し、同一法人との合同朝礼の中でも理念に触れ、利用者の心と気持ちに沿ったサービスが提供できているかを振り返る機会を持たれています。数年前に理念を見直されており、環境にやさしい福祉、地域に開かれた福祉について職員と勉強会が行われています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元自治会(紐差第三区)の会員で、自治会の諸行事に参加している。	自治会に入会し、交通指導員や地域の球技大会の食事作り、ボランティアなど積極的に参加して地域住民と交流を深められています。また、高校・専門学生の職業体験の受け入れや小・中学校の行事の見学などを通じて地域子ども達とのふれあいの機会も多く設けられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会や家族会との交流を通じて、認知症の理解や支援に協力をいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回のペースで運営推進委員会を開催し、利用状況や苦情・事故・ヒヤリハットおよび活動状況を報告し、意見・質問など伺っている。そうした意見を基にサービス向上に努めている。	運営推進委員には、家族代表、地域の人々、行政担当者にも出席頂いているほか、ホームの利用者も交代で参加されています。ホームの現状や活動報告は写真を交えながら行い、活発に意見を交わされています。事故やヒヤリハットの報告は、事後対応や対策も発表されています。	
5	(4)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市担当者も必ず出席いただき、行政機関の要望や判断等をうかがっている。また、市や社協の主宰する研修や講習会などにも積極的に参加している。	運営推進会議の出席は、役所の職員が交代で参加されており、日頃から各担当者とは連絡を取り合い、気軽に相談できるような信頼関係が築かれています。ホームも、行政側から要請があれば行政のイベントや研修などに可能な限り参加されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設置し、指針において身体拘束はおこなわないとの決定事項の周知徹底を職員にしている。また、身体拘束についての研修会も講師を呼んで実施している。	身体拘束ゼロの実現に向けて、利用者の性格・行動パターン・心理状態の変化など様々な面から利用者の観察が行われ、利用者それぞれに合った言葉かけや見守りを実施されています。長崎市内から専門の講師を招いて身体拘束関連の勉強会も行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、職員の意識の向上を目指すとともに、虐待防止について、講師を呼んで、研修会を開催している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市社協などが開催する権利擁護に関する研修会に積極的に参加し、それらを持ち帰り、職員間で共用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書にて説明をし質問を受け理解や納得を得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や状態報告時に家族から意見を聞き要望を取り入れている。家族との連携を密にし、ご家族の意見を常に聞き入れている。	家族会を開催し、運営状況等の報告や職員手作りの料理を利用者と一緒に食べて頂くなど、ホームでの生活を実感して頂けるよう取り組まれています。「介護の姿勢」「ホームの雰囲気」などテーマを決めてのアンケート調査も行われ質の向上に努められています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のグループホーム会議への出席ができないこともあるが毎月の委員会又拡大会議の折にグループホームからの要望等については意見を聞き対応している。	会議の中で職員の意見やアイデアはよく出ていますが、個人的な要望や相談などは個別で対応されています。職員の有給休暇の取得率なども調査されており、働きやすい職場を目指して意見や要望にも耳を傾けてられています。今後は全職員の個人面談も予定されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社会福祉法人白寿会就業規則を基に各職種、職員の実績、勤務状況などを把握して昇給人員配置等については配慮している。(キャリアパスシートの導入)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症に関する勉強会、新任者、中堅者の研修会参加を受ける機会を確保している。又、法人主催の研修会を通し介護について、認知症について各自が学び意識向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他の施設との交流や福祉施設交流会など積極的に参加し、交流を図っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴の時間を多く取り、本人のニーズの掘り起こしに時間をとるように心がけている。又、積極的な声掛けで本人の安心を確保するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様とゆっくり相談できる雰囲気作りに努め、常に家族からの要望に耳を傾けられるようにし、ご家族様が安心できるような環境づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズの把握、ご家族やケアマネージャーと密に情報交換を行い、又、職員で情報交換し合い必要なサービスを見極める事が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者様と共に過ごし、一部の家事等を手伝って頂き、より良い生活になる様に努めている。介護が重度の方については、できる範囲で協力して頂き少しでも暮らしを共にする関係ができるように支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者のご家族様の関係性をふまえた上で接して絆を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	身内の方への面会に家族と外出したり、別の事業所からも面会を受け入れたりふるさと訪問をし馴染みの人や場所との関係性を大切に出来るように支援している。	利用者を訪ねてホームに来られる友人や近所の人々に対して職員は明るい笑顔で対応されており、いつでも気軽に遊びに来て頂ける雰囲気づくりに努められています。また、住み慣れた家の近所を車で巡るふるさとドライブも実施されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の個性を把握し、個人の性格や認知症の状態、身体機能に合わせて利用者同士が関わりを持てるように座席を配慮し、職員も一緒にコミュニケーションをとりレクリエーション等をして職員も加わり仲介役として活動している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居され、他の施設に移ったがご家族とお会いした時には相談、支援に努めている。また、死亡退去された時には、葬儀には必ず参列し、初盆の際には管理者がご挨拶に訪問している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを尋ね知り、希望、意向を把握している。本人の意思確認が困難な場合には家族に尋ねたり気持ちを汲み取ったりみんなでニーズを見出している。	普段から時間が空いた時は、利用者とのコミュニケーションを図り、じっくり話を聞くことで心を開いていただけるよう心掛けられています。利用者のちょっとした表情やしぐさも見逃さないように、全職員で情報を共有しながら利用者の希望するサービスを提供されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、馴染みの暮らしを把握しこれまでのサービスの経過を見直しながらアセスメントを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中でバイタルチェックや身体状況、食事摂取状況、排便の有無等現状の把握に努めている。又、利用者様のできる事を活かせるように、野菜の皮むきや縫い物、洗濯干し、たたみ毎日使う新聞折りなどを依頼して作業としても取り入れている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者は利用者の把握に努め、担当者会議やグループホーム会議にて意見交換を行っており、本人やご家族様の希望を聞き、計画を作成している。	居室担当者は月末にモニタリングを実施し、目標の達成状況や変化を記録しています。更新は半年を目途にされており、利用者に変化があれば随時対応されています。本人や家族の意見に加え、モニタリング結果や職員の話聞いて課題を拾い出されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケアノートに記載し毎月のモニタリングを記入し、職員間で情報共有しながら、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態変化により定期受診以外の受診を行っている。余命宣告を受けた方のふるさと訪問等にてニーズを把握し終末期の本人や家族様への柔軟な支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各季節ごとに行われる、諸行事に参加されたり、友愛訪問での文化交流を行い、楽しみを持って地域の方との交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診については、本人及び家族の希望を大切に、かかりつけ医を決定している。異常な特変があれば直ぐに報告し対応している。病院、家族、ホームとの連携に努めている。受診に診療経過表を持参し記録や服薬確認ができるように努めている。	利用者や家族の希望の医療機関で受診することが出来ます。ホームのすぐ近くに設備の整った協力病院があり、夜間の急病にも対応可能です。その他の各医療機関とホームとの緊急の際にも説明ができるよう体制が整えられています。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設として特養に看護師が在中している事により、体調不良時や急変時の指示を仰ぎ利用者が適切に受診できる様支援している。又、いつでも相談できる関係を保てる。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は介護サマリーの提供と面会にて病院側と情報交換、相談に努め、病院関係者との連携を図っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師より余命宣告を受けた時点で話し合いをして同意書を交わし、状態の変化に応じて食事形態を話し合ったり補助食品を取り入れるなど、管理栄養士との連携も図りながらチームで取り組んでいる。又、状態の安定している時期にご兄弟や姉妹との面会の場を設けたり出身地への訪問をしたりと関係者と共に支援に取り組んでいる。	契約時に、ホームでの看取りの考え方について本人・家族に説明をされています。看取り期の介護については、家族同然に時間を共にした利用者「穏やかな最期を送って頂きたい」という気持ちで法人全体で協力し看取りケアに取り組まれています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	職員は消防署の救命救急の講習を受け、緊急時に対応できるようにしている。また、職員は吸引の勉強会や夜間急変時の勉強会を行い、実践力を身に付けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	緊急連絡網の夜間呼集訓練や夜間消防署や地域の消防団との夜間避難訓練を開催している。職員は初期消火操法の大会にも参加している。火災を未然に防ぐための対策としては、防災カーテンを使用したり、コンセント部の細目な清掃等に努めている。消防の勉強会を2か月に1回行っている。	夜間想定訓練は、同じ敷地内の事業所も合同で訓練を実施されています。全居室からバルコニーに出て、その後は緊急避難用のすべり台や階段で非難することが可能です。非常食や飲料水は倉庫に備蓄されており、停電に備えて軽油で稼働する予備電源装置も用意されています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ない言葉かけや対応をしている	方言を用いたりその方に応じて安心できる対応を考えながら本人の人格を尊重し言葉かけをしている。居室で利用者が過ごしている時はノックと声かけを行い、本人の時間を損なわない様に努めている。	排泄や入浴の介助を行うときは、特にプライバシーや利用者の羞恥心に配慮し介助されています。普段の会話は、方言なども交えながらざつぱらんな雰囲気で行われていますが、親しくなりすぎて敬意を払うことを忘れないよう職員に指導されています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢が出来る言葉かけを行い、希望を話せる様な雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者、1人1人の性格や状態に応じて、声かけをし、ゆっくりとしたペースで生活が出来る様に、無理をしない様に支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時など洗面所の鏡の前で自分で髪を整えたり、美容師資格を持った職員により散髪も定期的に行っている。1人1人の個性にあった衣類を毎日のようにコーディネートしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際のテーブル拭き、お茶入れ、配・下膳茶碗洗い等を利用者様にも依頼している。誕生会ではメニューを本人から聞き、野菜の皮むきや牛蒡そぎ、面取り等をして頂いている。又、梅干しづくりでは梅のヘタをとりシソをちぎり漬け込み、土用干しなど各自が行えることを行っている。	ホームでは、旬の物や質の良い食材を提供するという事にこだわって日々の食事を提供されています。そのため、冷凍の魚や肉はなるべく使用せず新鮮なものを仕入れて調理されています。おやつも手作りで、バナナケーキや蒸しまんじゅう、自家製ヨーグルト等、どれも好評のようです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各、個人に合った形態、量、嗜好を通り入れながら管理栄養士のたてた献立によりバランスのとれた食事を提供している。又、栄養補助飲料やゼリー等を取り入れ1人1人の状態に応じて支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	緑茶にて毎食後の口腔ケアを行っている。自力では困難な方には介助を行い、義歯は外して洗い、口腔内の観察に努めている。また、義歯洗浄を用い清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	全入所者が日中はトイレにて排泄されている。訴えない方については本人の尿間隔を推察しながらトイレ誘導を行い、尿汚染がないように取り組んでいる。また、夜間でもトイレで排泄可能な方は介助を行い、自立に向けた支援を行っている。	排泄は自立支援の観点に基づいて介助されており、安易におむつにさせないように日々取り組まれています。認知症や障害のある方で、トイレの一連の排泄動作の際、欠けている部分があれば言葉をかけたり、一部手伝われたりされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操や上下肢運動等を行い、腸の蠕動運動を促進に排便を促している。起床時に早朝に牛乳、10時に、カスピ海ヨーグルトを提供している。排便困難時には水分、果物、さつま芋を摂取して頂き便秘予防、改善に努めている。なるべく下剤を用いず排便コントロールができるように目指している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	薬湯やゆず湯など季節感を味わって頂き家庭的な雰囲気を楽しんでもらえる様支援している。体調、体力など本人の状態により回数や時間帯は職員が決めているが、希望があればいつでも入浴出来る様に支援している。	入浴は可能な限り浴槽にゆっくり入って頂けるよう支援されています。入浴時には、身体や皮膚の状態など利用者に変化がないか観察しながら介助されています。体調が悪かったり、皮膚にトラブルを抱えたりしている利用者には足浴や清拭で対応し、清潔保持を図られています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、傾眠の場合等は夕食後もホールで過ごして頂き遅めに床につかれたり本人のその時の状況や希望に応じて支援している。夜間、不眠時は話を聞いたり暖かいお茶と一緒に飲んだりして安心して休んで頂ける様努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診などで内服薬が処方になった場合は口頭での申し送り帳を活用するなどし、各自が副作用の出現に注意し、症状の変化にも気づくことができるように努めている。又、服薬介助時には2人での氏名確認により誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	故郷訪問をして懐かしい場所へ出かけている。又、季節に応じて花見や海遊び、そうめん流しなど気分転換が図れる様支援している。また、誕生月の方に嗜好品を尋ねメニューに取り入れ楽しんで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	畑作業や季節の実を取り、利用者様みんなで季節のドライブも行い、楽しんでいる。個人に合わせて墓参りふるさと訪問を行っている。	外出支援は年間計画を立てて、初詣・茶市・桜や菖蒲等の花見ドライブ・海遊びなど、色々な場所へ出掛けられています。それ以外も日常的に散歩や買い物に出掛けられています。地域の祭りや文化祭・運動会等を見学に行かれる機会も持たれています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日用品など買い物等は希望有れば随時検討している。高価な物の場合はご家族にも相談の上購入を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方は自由に連絡しておられる。年賀状は毎年行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、食事の際には音楽を流して和みの空間を心がけている。また、居室には本人の写真やバースデイカードを飾るなど自分の空間として楽しんでいる。	玄関から入ってすぐの場所にある広々としたリビング兼食堂や奥には畳の小上がりスペースがあり、冬はこたつが置かれています。また食卓には、季節感のある野の花が飾られるなど和める空間を作られています。空気清浄機や加湿器も設置され、快適に過ごせるよう調整されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	既に入居されている方、自分の場所はすでに持っておられ、新しく入居された方も自然に自分が生活していく中で自分の居場所を見つけていき過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や物を持ちこまれ方もいる。花を飾ったり、プレゼントも飾っておられる。	居室には洗面台と大きなクローゼットが備え付けられていますが、それ以外は利用者の愛着のある家具や小物など自由に持ち込むことが出来ます。畳のある方が落ち着くという事であれば、床に畳を敷くことも可能です。天気の良い日は窓を開けて換気を行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のクローゼットに衣類の表示はしているが、収納できる方は少ない。本人の出来る事、力があっても認知により重度化している方には職員と一緒にやっている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			